



2026年3月期  
決算説明資料

# 2025年度決算・2026年度業績予想

---

2026年5月

 五洋建設株式会社

# 目次

## 2025年度決算・2026年度業績予想

■ 受注 2025年度実績・2026年度予想（個別）	1
■ 2025年度 決算実績	2
■ 2026年度 業績予想	3
■ 部門別売上高・営業利益の推移（連結）	4
■ 財務計画・株主還元	5
■ 株主構成（2026年3月末）	6
■ 2025年度 主要受注工事（個別）	7
■ 2025年度 主要完成工事（個別）	8

## トピックス

■ 130周年を迎えて	9
■ サステナビリティ経営の実践	14
■ GXの推進 カーボンニュートラルの実現に向けて	15
■ GXの推進 洋上風力建設への挑戦	16
■ GXの推進 洋上風力作業船のラインアップ	17
■ 国内土木 国内最大規模PCa床板の一括架設	18
■ 国内土木 2025年度 主要竣工工事	19
■ 国内建築 DXの推進 リニューアル工事における生産性向上	20
■ 国内建築 2025年度 主要竣工工事	21
■ 海外 地下トンネル工事の難所を技術力で突破	22
■ 海外 シンガポール手持工事、主要船舶稼働状況	23
■ 海外 香港・その他 手持工事	24



Mr.PENTA

本資料に記載された、予想・見通し等につきましては、資料作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績数値等は、今後さまざまな要因によって記載の予想・見通し等とは異なる可能性があります。

# ■ 受注 2025年度実績・2026年度予想 (個別)

(単位：億円)

## ■ 2025年度受注実績

～過去最高受注額(7,165億円、'14年度)を大幅に更新

- 国内土木：3,147億円 (前期比 +817億円)  
～大型工事の受注により前期比大幅増
  - ・海上：1,951億円 (前期比 +734億円)  
臨港道路、防衛、複数の民間大型工事の受注で大幅増
  - ・陸上：1,196億円 (前期比 +84億円)  
防衛関係が増加
- 国内建築：3,311億円 (前期比 +152億円)  
～物流倉庫・防衛施設など大型工事の受注により前期比増加
  - ・住宅：468億円 (前期比 +63億円)
  - ・非住宅：2,842億円 (前期比 +88億円)  
複数の物流倉庫、防衛施設等の大型工事の受注で増加
- 海外：2,053億円 (前期比 +872億円)  
～シンガポール、香港で大型工事の受注により前期比大幅増
  - ・土木：2,000億円 (前期比 +1,224億円)  
複数の大型工事の受注で大幅増
  - ・建築：53億円 (前期比 ▲352億円)  
大型工事の受注がなく減少

## ■ 2026年度受注予想

～堅調な受注環境のもと、高水準の受注を維持する

- 国内土木：3,000億円 (前期比▲147億円)  
・国土強靱化、防衛関連などに取り組む
- 国内建築：3,300億円 (前期比▲11億円)  
・物流、データセンター、再開発、防衛関連等の旺盛な需要を確実に取り込むためフロントローディングの取組みを継続
- 海外：1,500億円 (前期比▲553億円)  
・利益重視の徹底 (事前のリスク把握徹底、技術に裏打ちされた営業戦略、自社船舶の稼働率を高める戦略の明確化)

		2024	2025		2026			
		実績	実績	対2024 増減	対2024 増減率	予想	対2025 増減	対2025 増減率
国内 土木	官庁	1,719	2,255	536	31.2%	2,200	▲55	▲2.4%
	民間	611	893	282	46.1%	800	▲93	▲10.4%
	計	2,330	3,147	817	35.1%	3,000	▲147	▲4.7%
	海上	1,217	1,951	734	60.3%	2,000	49	2.5%
国内 建築	陸上	1,112	1,196	84	7.5%	1,000	▲196	▲16.4%
	(海上比率)	52.2%	62.0%	-	-	66.7%	-	-
	官庁	755	466	▲289	▲38.2%	400	▲66	▲14.3%
	民間	2,404	2,844	440	18.3%	2,900	56	2.0%
海外	計	3,159	3,311	152	4.8%	3,300	▲11	▲0.3%
	住宅	405	468	63	15.6%	300	▲168	▲36.0%
	非住宅	2,754	2,842	88	3.2%	3,000	158	5.5%
	(住宅比率)	12.8%	14.2%	-	-	9.1%	-	-
国内 計	官庁	2,474	2,721	247	10.0%	2,600	▲121	▲4.4%
	民間	3,015	3,737	722	24.0%	3,700	▲37	▲1.0%
	計	5,488	6,458	970	17.7%	6,300	▲158	▲2.4%
海外 計	土木	776	2,000	1,224	157.8%	900	▲1,100	▲55.0%
	建築	405	53	▲352	▲86.9%	600	547	1033.9%
建設 事業計	計	1,181	2,053	872	73.8%	1,500	▲553	▲26.9%
	土木	3,106	5,147	2,041	65.7%	3,900	▲1,247	▲24.2%
	建築	3,564	3,364	▲200	▲5.6%	3,900	536	15.9%
その他	3	3	0	2.3%	5	2	63.1%	
合計	6,673	8,514	1,841	27.6%	7,805	▲709	▲8.3%	

# 2025年度 決算実績

(単位：億円)

**大幅増収増益で過去最高売上高と最高益更新**  
**～手持工事の順調な進捗と設計変更等による採算改善**  
**中計当初目標を超過達成**

## ■ 連結

○ **売上高：7,943億円**(前年同期比+668億円、+9.2%)

- ・国内土木：大型港湾工事等の順調な進捗で増加
- ・国内建築：豊富な手持工事の順調な進捗で大幅増加
- ・海外：手持工事の進捗で大幅増加

○ **売上総利益：833億円**(同+357億円、+75.1%)

- ・国内土木：555億円(同+137)、17.0%(同+3.4P)
- ・国内建築：259億円(同+86)、9.5%(同+2.7P)
- ・海外：▲3億円(同+123)、▲0.2%

○ **営業利益：553億円**(同+336、+154.9%)

- ・国内土木：402億円(同+124)、12.3%(同+3.3P)  
※売上増と設計変更等による工事採算の改善
- ・国内建築：168億円(同+78)、6.1%(同+2.6P)  
※売上増と工事採算の改善
- ・海外：▲32億円(同+124)、▲1.8%

※前期に多額の工事損失を計上した影響で大幅増益も、  
 個別 ▲14億円(建築の採算見直し等)  
 子会社▲18億円(UG M&E 追加損失等)

※為替差益等26億円(同+17億円)、支払利息等47億円(同+9億円)

○ **経常利益：532億円**(同+344億円、+182.4%)

○ **当期純利益：347億円**(同+222億円、+178.4%)

(当初250億円、26年2月修正320億円)

## ■ 個別

○ **売上高**：7,455億円(同+764億円、+11.4%)

○ **営業利益**：512億円(同+324億円、+172.3%)

○ **経常利益**：492億円(同+318億円、+182.6%)

○ **当期純利益**：316億円(同+208億円、+192.3%)

	個別				連結							
	2025実績		対2024増減		2025予想 (26.2発表)		2025実績		対2024増減		2025予想 (26.2発表)	
国内土木	2,975		154		2,850		3,259		186		3,075	
国内建築	2,706		206		2,650		2,734		189		2,675	
海外	1,771		404		1,650		1,818		300		1,710	
その他	3		0		5		132		▲7		130	
売上高	7,455		764		7,155		7,943		668		7,590	
国内土木	505	17.0%	125	3.5p	465	16.3%	555	17.0%	137	3.4p	505	16.4%
国内建築	252	9.3%	87	2.7p	240	9.1%	259	9.5%	86	2.7p	245	9.2%
海外	8	0.5%	130	9.4p	20	1.2%	▲3	▲0.2%	123	8.1p	9	0.5%
その他	2	51.3%	1	1.2p	0	0.0%	23	17.6%	11	8.8p	21	16.2%
売上総利益	768	10.3%	344	4.0p	725	10.1%	833	10.5%	357	4.0p	780	10.3%
一般管理費	256	3.4%	20	▲0.1p	250	3.5%	280	3.5%	21	▲0.1p	275	3.6%
国内土木	361	12.1%	114	3.3p	320	11.2%	402	12.3%	124	3.3p	354	11.5%
国内建築	164	6.1%	80	2.7p	155	5.8%	168	6.1%	78	2.6p	158	5.9%
海外	▲14	▲0.8%	130	9.8p	0	0.0%	▲32	▲1.8%	124	8.5p	▲20	▲1.2%
その他	1	43.8%	0	1.0p	0	0.0%	15	11.6%	10	7.8p	13	10.0%
営業利益	512	6.9%	324	4.1p	475	6.6%	553	7.0%	336	4.0p	505	6.7%
営業外損益	▲20		▲6		▲35		▲21		8		▲30	
経常利益	492	6.6%	318	4.0p	440	6.1%	532	6.7%	344	4.1p	475	6.3%
特別損益	▲19		▲7		▲12		▲7		▲11		0	
税引前利益	472	6.3%	310	3.9p	428	6.0%	525	6.6%	332	4.0p	475	6.3%
当期純利益	316	4.2%	208	2.6p	290	4.1%	347	4.4%	222	2.7p	320	4.2%

	2025実績		対2024増減		2025予想 (26.2発表)		2025実績		対2024増減		2025予想 (26.2発表)	
総資産	7,358		1,259		6,800		7,904		1,303		7,400	
純資産	1,616	22.0%	180	▲1.5p	1,557	22.9%	1,990	25.1%	269	▲1.0p	1,886	25.5%
有利子負債残高	1,708	23.2%	154	▲2.3p	1,730	25.4%	1,961	24.8%	296	▲0.4p	1,965	26.6%
現預金残高	644		132		500		718		145		560	
純有利子負債	1,065	14.5%	23	▲2.6p	1,230	18.1%	1,244	15.7%	152	▲0.8p	1,405	19.0%
D/E(レシオ(ネット))	0.7		0.0		0.8		0.6		0.0		0.7	
ROE	20.7%		13.3p		19.4%		18.7%		11.5p		17.7%	

# 2026年度 業績予想

(単位：億円)

着実な事業進捗により、売上・利益ともに過去最高を更新  
～国内は横ばいも、海外の増収と黒字転換により増収増益

## ■ 連結

○売上高：8,180億円（前期比 +237億円、+3.0%）

▷国内土木：3,250億円（前期比 ▲9億円、▲0.3%）

・大型港湾工事を含む手持工事の順調な進捗により、  
前期並みの高水準を維持

▷国内建築：2,750億円（前期比 +16億円、+0.6%）

・物流施設や防衛関連等、豊富な手持工事の進捗により増収

▷海外：2,050億円（前期比 +232億円、+12.8%）

・前期に受注した大型工事の本格化やシンガポールの大型病院  
工事の進捗により大幅増収

○売上総利益：890億円（前期比 +57億円、+6.8%）

▷国内土木：535億円（前期比 ▲20億円、▲3.6%）

・前期比減少も、引き続き高水準の利益と採算を継続

▷国内建築：275億円（前期比 +16億円、+6.3%）

・資材の価格上昇と供給制約懸念はあるものの、  
採算は改善の見込み（利益率10%）

▷海外：60億円（前期比 +63億円）

・事前のリスク把握と利益重視のマネジメントを徹底し、  
確実な黒字化を目指す

○営業利益：590億円（前期比 +37億円、+6.7%）

○経常利益：540億円（前期比 +8億円、+1.5%）

○当期純利益：350億円（前期比 +3億円、+0.9%）

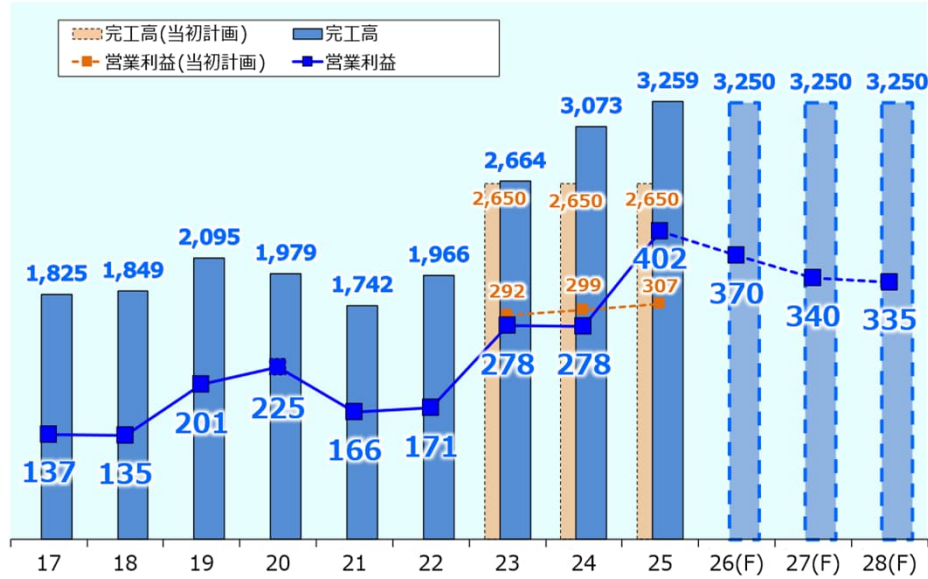
	個別						連結					
	2025実績		2026予想		対2025増減		2025実績		2026予想		対2025増減	
国内土木	2,975		3,000		25		3,259		3,250		▲9	
国内建築	2,706		2,700		▲6		2,734		2,750		16	
海外	1,771		2,000		229		1,818		2,050		232	
その他	3		5		2		132		130		▲2	
売上高	7,455		7,705		250		7,943		8,180		237	
国内土木	505	17.0%	520	17.3%	15	0.3p	555	17.0%	535	16.5%	▲20	▲0.5p
国内建築	252	9.3%	265	9.8%	13	0.5p	259	9.5%	275	10.0%	16	0.5p
海外	8	0.5%	50	2.5%	42	2.0p	▲3	▲0.2%	60	2.9%	63	3.1p
その他	2	51.3%	0	0.0%	▲2	▲51.3p	23	17.6%	20	15.4%	▲3	▲2.2p
売上総利益	768	10.3%	835	10.8%	67	0.5p	833	10.5%	890	10.9%	57	0.4p
一般管理費	256	3.4%	275	3.6%	19	0.2p	280	3.5%	300	3.7%	20	0.2p
国内土木	361	12.1%	365	12.2%	4	0.1p	402	12.3%	370	11.4%	▲32	▲0.9p
国内建築	164	6.1%	170	6.3%	6	0.2p	168	6.1%	178	6.5%	10	0.4p
海外	▲14	▲0.8%	25	1.3%	39	2.1p	▲32	▲1.8%	30	1.5%	62	3.3p
その他	1	43.8%	0	0.0%	▲1	▲43.8p	15	11.6%	12	9.2%	▲3	▲2.4p
営業利益	512	6.9%	560	7.3%	48	0.4p	553	7.0%	590	7.2%	37	0.2p
営業外損益	▲20		▲35		▲15		▲21		▲50		▲29	
経常利益	492	6.6%	525	6.8%	33	0.2p	532	6.7%	540	6.6%	8	▲0.1p
特別損益	▲19		▲10		9		▲7		▲10		▲3	
税引前利益	472	6.3%	515	6.7%	43	0.4p	525	6.6%	530	6.5%	5	▲0.1p
当期純利益	316	4.2%	340	4.4%	24	0.2p	347	4.4%	350	4.3%	3	▲0.1p

	2025実績		2026予想		対2025増減		2025実績		2026予想		対2025増減	
総資産	7,358		7,600		242		7,904		8,200		296	
純資産	1,616	22.0%	1,701	22.4%	85	0.4p	1,990	25.1%	2,085	25.6%	95	0.5p
有利子負債残高	1,708	23.2%	1,577	20.8%	▲131	▲2.4p	1,961	24.8%	1,850	22.6%	▲111	▲2.2p
現預金残高	644		523		▲121		718		578		▲140	
純有利子負債	1,065	14.5%	1,054	13.9%	▲11	▲0.6p	1,244	15.7%	1,272	15.5%	28	▲0.2p
D/Eレシオ(ネット)	0.7		0.6		▲0.1		0.6		0.6		0.0	
ROE	20.7%		20.5%		▲0.2p		18.7%		17.2%		▲1.6p	

# 部門別売上高・営業利益の推移（連結）

## ● 国内土木

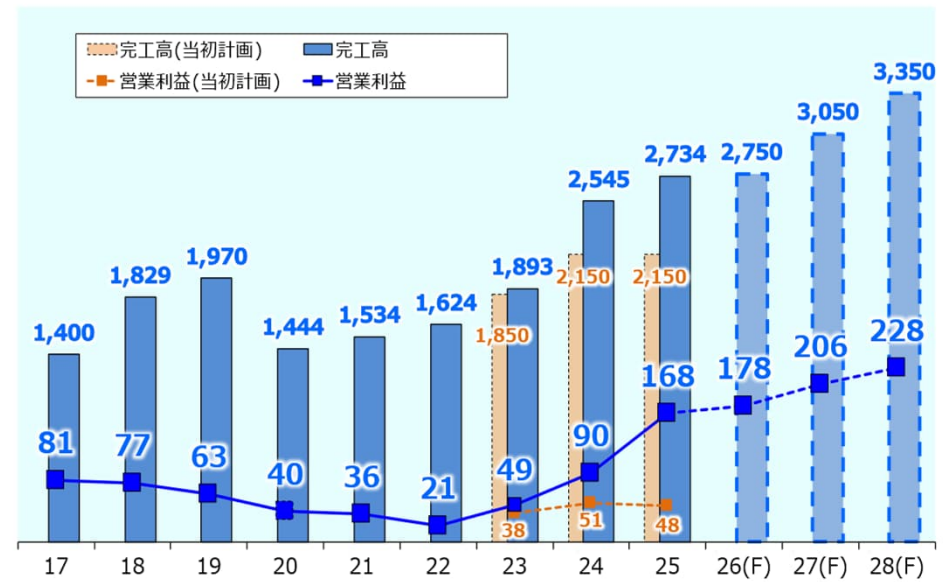
(億円)



## ● 国内建築

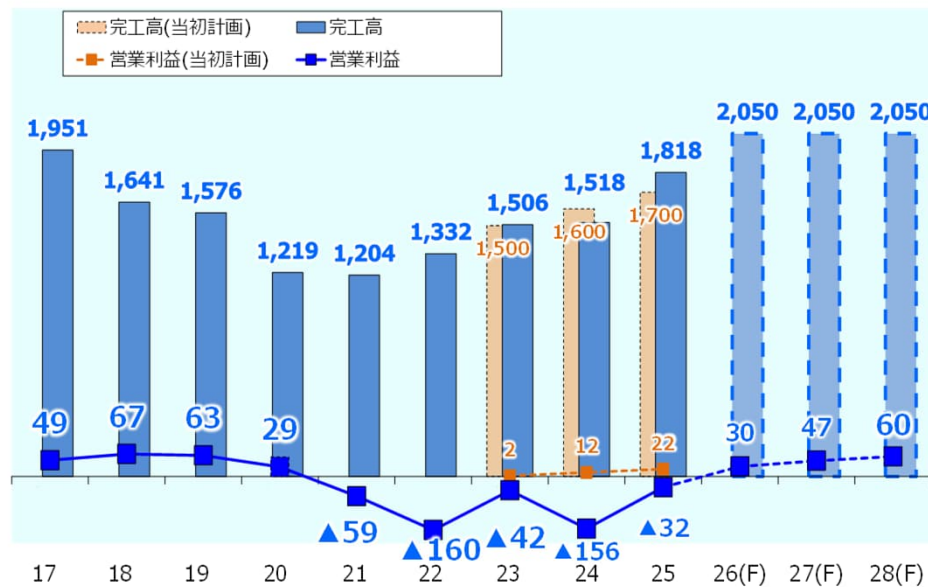
当初計画：中期経営計画（2023年5月発表）

(億円)



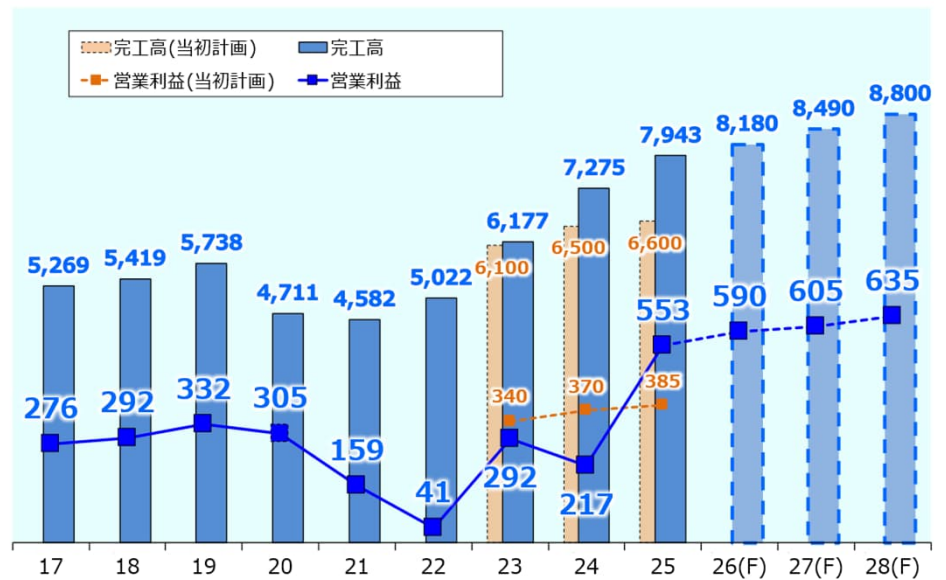
## ● 海外

(億円)



## ● 全社（その他を含む）

(億円)



# ■ 財務計画・株主還元

## ● 財務計画

### ○ 豊富な事業量は継続 ～営業CFは継続的に確保

- ・ 完工高の増加が緩やかになったことから前期は回収期となり2025年度の営業CFは684億円と大幅な収入超過となった
- ・ 2026年度も資金回収が支出を上回り営業CFは+560億円を見込む

### ○ 洋上風力作業船の建造は順調 ～3隻目のSEP船が完成

- ・ HLV（大型基礎施工船）、CLV（ケーブル敷設船）の建造は予定通り
- ・ 3隻目のSEP船「Sea Challenger\*1」は25年12月完成、26年2月から台湾で稼働、27年に日本船籍化して稼働予定
- ・ 洋上風力関連作業船の建造費の支出は2025年度をピークに大幅に減少（2025年度：▲580億円 → 2026年度以降：▲200億円程度）

\*1 DEME Offshore社(ベルギー)との合併会社ジャパンオフショアマリン(JOM)で保有

### ○ 資金調達 ～投資に合わせた資金調達

- ・ CLV(ケーブル敷設船)の建造では、物流総合効率化法の認定を受け25年度に10年の低利な財投融資を活用。24年度のHLV(大型基礎施工船)に続き2例目となる。(HLV：280億円、CLV：90億円、合計370億円)

## ● 株主還元 ～業績の上振れで期初予想から14円増配

- |   |                           |                  |       |
|---|---------------------------|------------------|-------|
|   | 年間配当                      | 自己株式取得           | 総還元性向 |
| ・ | 25年度：48円(38.1%)           | 100億円(25下期、26上期) | 66.9% |
|   | ※上期17円、下期17円 → 31円 (+14円) |                  |       |
| ・ | 26年度：52円(40.1%)           | 100億円(26下期、27上期) | 68.6% |

## ● 政策保有株式の推移 ～28年度末に純資産比率10%以下

- ・ 2025年度は計画通り10銘柄を売却（2銘柄は部分売却）するも、株価上昇の影響で純資産比率は前期比+1.7pの12.1%と増加
- ・ 保有先との取引関係を考慮しながら削減を継続し、2028年度末までに目標とする純資産比率10%以下を達成

## CF・有利子負債残高の推移

(単位：億円)

		2024 実績	2025 実績	2026 計画
連結	営業CF	▲233	684	560
	投資CF	▲232	▲663	▲310
	財務CF	439	96	▲370
	期末資金残高	573	718	598
	有利子負債残高	1,665	1,961	1,850
	うち作業船関連	(374)	(607)	(626)
	(対前年度比)	562	296	▲111
個別	期末資金残高	512	644	523
	有利子負債残高	1,554	1,708	1,577
	うち作業船関連	(280)	(370)	(370)
	(対前年度比)	562	154	▲131

※CF：連結CF計算書、期末資金残高：B/S上の現金預金

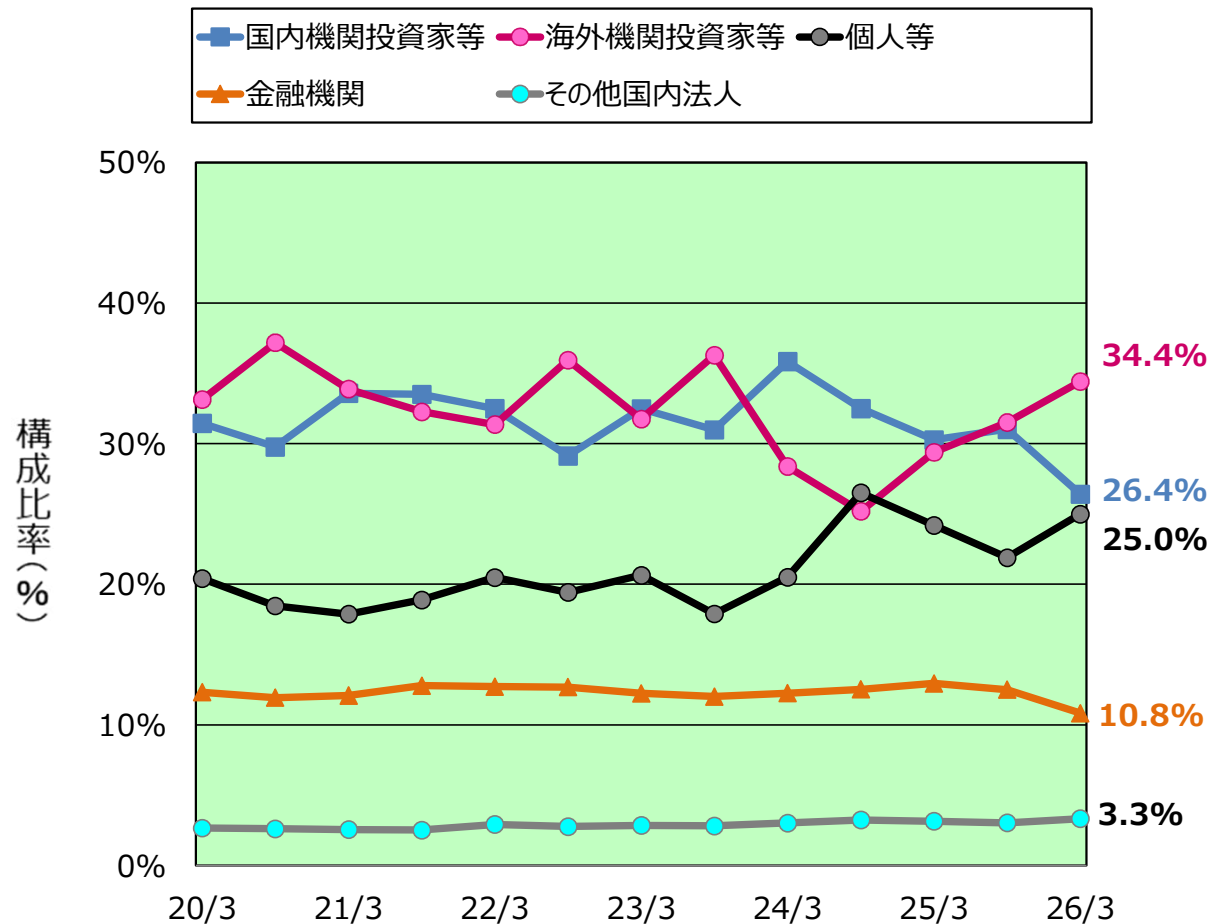
※作業船関連借入金 連結：鹿島建設、寄神建設、DEME Offshore社  
個別：JR TT（財投融資）

## 年間配当額・配当性向・総還元性向の推移（連結）

	2024			2025			2026		
	実績			実績			計画		
	中間	期末	計	中間	期末	計	中間	期末	計
一株当たり配当額（円）	12	12	24	17	31	48	26	26	52
配当性向	54.5%			38.1%			40.1%		
自己株式取得額（億円）	-	50	50	50	50	100	50	50	100
還元性向	40.1%			28.8%			28.6%		
総還元性向	94.6%			66.9%			68.6%		

# 株主構成 (2026年3月末)

- 発行済株式総数 : 286,013,910株 (自己株式 12,058,549株を含む)
- 株主数 : 72,266名 (前期末比 14,869名増)
- 株主構成 : 国内機関投資家等26.4% (前期末比▲3.9p) 海外機関投資家等34.4% (同+5.0p)  
個人等25.0% (同+0.8p) 金融機関10.8% (同▲2.1p) その他国内法人3.3% (同+0.2p)  
→ 国内外の機関投資家等60.8% (前期末比+1.2p)



## 株主トップ10

株主名	株式数	率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 (信託口)	39,357,100	14.4
日本カスタディ銀行 (信託口)	15,784,200	5.8
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	8,989,893	3.3
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	7,275,659	2.7
明治安田生命保険	5,990,400	2.2
みずほ銀行	5,647,296	2.1
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	5,178,606	1.9
損害保険ジャパン	4,280,000	1.6
五洋建設取引先持株会	4,195,737	1.5
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	3,961,819	1.4
上位10位計	100,660,710	36.7

# ■ 2025年度 主要受注工事（個別）

	発注者	工事名称	施工地	金額	受注時期	工期
国内土木	九州地方整備局	令和4年度馬毛島係留施設等築造工事（追加・変更）	鹿児島県	153億円 (JV245億円)	4Q	2022/10 - 2027/03
	沖縄防衛局	シュワブ（R5）C-1護岸新設等工事（追加・変更）	沖縄県	130億円 (JV259億円)	4Q	2023/12 - 2028/03
	オオノ開発	（仮称）知多シップリサイクルヤード整備工事	愛知県	127億円	3Q	非公表
	近畿地方整備局	神戸港臨港道路大阪湾岸道路西伸部主塔（2P）基礎工事	兵庫県	93億円 (JV186億円)	3Q	2025/12 - 2030/03
	中日本高速道路	東名高速道路日進三好地区（上り線）拡幅工事	愛知県	63億円 (JV91億円)	2Q	2025/08 - 2029/09
	関西エアポート	関西国際空港2期島フェーズ1止水壁等築造工事	大阪府	非公表	4Q	2026/02 - 2027/11
国内建築	川西3特定目的会社	ESR川西DC3新築計画	兵庫県	非公表	1Q	2025/04 - 2028/02
	大創産業	（仮称）関西RDC新築工事	大阪府	非公表	3Q	2025/12 - 2028/03
	南関東防衛局	武山（6補）教育施設等整備工事（その3）（第2回変更）	神奈川県	210億円 (JV404億円)	4Q	2025/03 - 2028/03
	広島ホテルマネジメント	（仮称）広島市南区的場町1丁目ホテル計画 新築工事	広島県	非公表	3Q	2025/12 - 2028/03
	ヨドバシホールディングス	（仮称）ヨドバシ池袋建築設備工事	東京都	非公表	3Q	2025/01 - 2025/12
	安田不動産	（仮称）西新橋2-5計画 新築工事	東京都	非公表	4Q	2026/03 - 2028/06
海外	チャンギエアポートグループ	チャンギ空港第5ターミナルターミナル連絡トンネル工事	シンガポール	761億円 (JV1,087億円)	1Q	4年強
	香港機場管理局	香港国際空港無人交通車両用道路・駅舎建設工事	香港	415億円	2Q	46ヶ月
	JTCコーポレーション	トゥアス北部埋立工事	シンガポール	335億円	1Q	2025/08 - 2030/07

# ■ 2025年度 主要完成工事（個別）

		発注者	工事名称	施工地	金額	通期請負額	進捗率	工期
完成工事（出来高）	国内土木	九州地方整備局	令和4年度馬毛島係留施設等築造工事	鹿児島県	503億円	1,634億円 (JV2,614億円)	74.0%	2022/10 - 2027/03
		近畿地方整備局	神戸港ポートアイランド（第2期）地区荷さばき地（PC15から17）地盤改良等工事（第2工区）	兵庫県	42億円	46億円 (JV66億円)	91.1%	2024/09 - 2026/06
		独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	北海道新幹線、長万部駅高架橋	北海道	38億円	150億円 (JV299億円)	32.0%	2023/10 - 2027/06
		西日本高速道路	広島呉道路 坂工事	広島県	34億円	88億円	73.7%	2022/03 - 2026/07
		独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	北海道新幹線、大新高架橋外1箇所	北海道	30億円	119億円 (JV239億円)	59.3%	2023/01 - 2026/08
	国内建築	月島三丁目北地区市街地再開発組合	月島三丁目北地区第一種市街地再開発事業 施設建築物新築工事	東京都	230億円	646億円	92.5%	2022/03 - 2026/06
		南関東防衛局	武山（6補）教育施設等整備工事（その1～3）	神奈川県	90億円	473億円 (JV909億円)	17.4%	2025/01 - 2028/03
		ゴールドクレスト	（仮称）クレストフォルム南砂町駅前計画新築工事	東京都	66億円	120億円	85.4%	2023/08 - 2026/09
		久喜市	（仮称）久喜市新ごみ処理施設整備運営事業	埼玉県	61億円	182億円	61.6%	2022/10 - 2029/03
		桜台団地マンション建替組合	桜台団地マンション建替事業	神奈川県	51億円	231億円	98.0%	2022/10 - 2026/08
	海外	シンガポール政府	エレクティブケア&ナショナルデンタルセンター新築工事	シンガポール	443億円	1,150億円	59.2%	非公表
		シンガポール政府	シンガポール・マレーシア国境鉄道施設工事	シンガポール	191億円	1,013億円	85.5%	2020/11 - 2026/09
		シンガポール政府	クロスアイランド・ライン（地下鉄）CR117工事	シンガポール	124億円	576億円	55.0%	非公表
		香港大学	香港大学研究実験棟及びIT棟新築工事	香港	96億円	419億円	89.5%	非公表
		シンガポール政府	チュアスターミナル第二期埋立工事	シンガポール	68億円	565億円 (JV1,614億円)	83.6%	2018/03 - 2027/03

# トピックス

---

# ■ 130周年を迎えて



**Evolution 1：サステナビリティの取組みは現場から**  
協力会社・取引先のみならず、常にサステナビリティを考えた事業を展開します

**Evolution 2：建設の未来を切り拓く**  
AIとロボティクスを活用したDXとGXを推進し、ワクワクする建設現場へと変革します

※Evolutionとは、自ら進化し続けること



五洋建設は、本年4月10日、創業130周年を迎えました。

1896年広島県呉市で水野組として創業し、海の土木から始まり、陸の土木、建築へと業容を拡大してきました。海外においても、1961年のスエズ運河改修工事を機に本格的に進出し、1964年に進出したシンガポールを拠点に、シンガポール、香港および東南アジアを中心に事業を展開してきました。創業以来、当社のDNAである「進取の精神」で国内外の難工事、大型工事に挑戦してきました。

創業125周年では、「新たな挑戦がはじまる ～歩んだ軌跡が未来をつくる」というメッセージを掲げ、部門間連携やDE&Iの推進、「デジタル」と「グリーン」の推進、そして洋上風力やZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）といった新分野への挑戦に取り組んできました。

130周年のメッセージは、これらの挑戦をさらに進化させるという思いを含め、「新たな挑戦がつづく」としました。五洋建設グループは、時代の変化を先取りし、変化に適応しつつ、自ら進化し続けることで未来を切り拓きます。そのために、二つの「Evolution（進化）」に挑戦します。

## Evolution 1：サステナビリティの取組みは現場から

～協力会社・取引先のみならず、常にサステナビリティを考えた事業を展開します

ESG（環境、社会、企業統治）の観点から常にサステナビリティを考えた事業活動、企業行動を実践することを会社のDNAへと進化させます。CO<sub>2</sub>の削減やネイチャーポジティブの取組みなどの環境の保全と創造、労働安全衛生の確保、DE&Iの推進、人権の尊重、協力会社や取引先との適正な取引といった社会的責任を、日々の業務の中で着実に果たします。

## Evolution 2：建設の未来を切り拓く

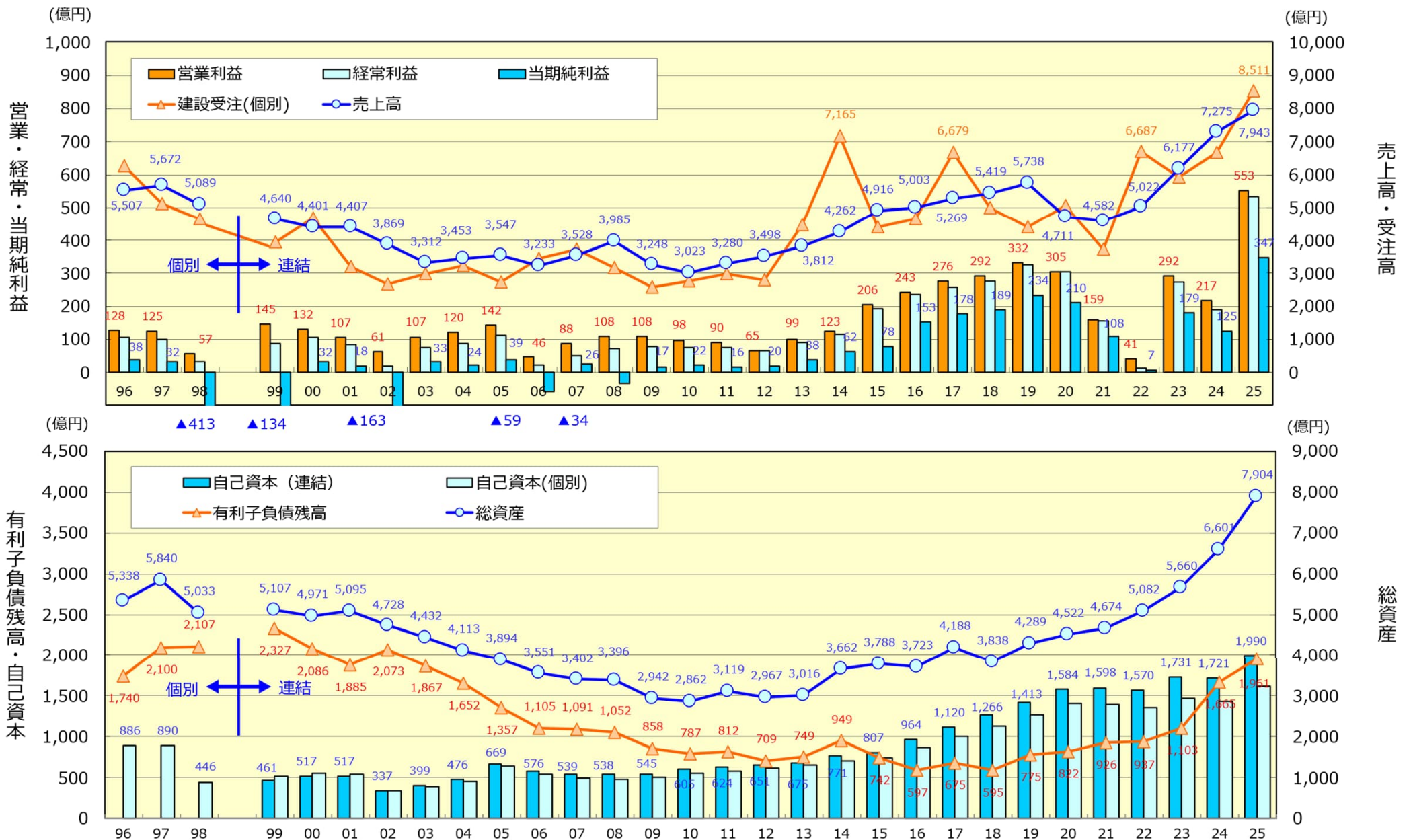
～AIとロボティクスを活用したDXとGXを推進し、ワクワクする建設現場へと変革します

10年後の建設現場の未来の姿を見据えて、AIとロボティクスの現場実装により、若者が魅力を感じる建設現場へと進化させます。「グローバルDXセンター」が先導して、建設DX（デジタル施工の高度化、施工管理の効率化）、ナレッジDX（経験・知識の定型業務への活用、設計・施工計画の自動化）、経営DX（デジタル基盤の整備、経営管理の効率化）を推進します。また、DX推進による生産性向上は、使用燃料の低炭素化・脱炭素化につながります。再生可能エネルギーの利用拡大と合わせてGXの推進、CO<sub>2</sub>の排出削減につなげます。

五洋建設グループは、これからも進取の精神で、サステナブルな建設事業活動の実践と新技術・新分野への挑戦をつづけることで、すべてのステークホルダーがワクワクする建設の未来を切り拓きます。

これから歩む軌跡がさらにその先の未来をつくる、新たな挑戦がつづきます。

# 最近30年間の業績推移



# ■ 五洋建設130年の歴史

第Ⅰ期 (1896年～)	第Ⅱ期 (1945年～)	第Ⅲ期 (1981年～)	第Ⅳ期 (1996年～)
「水の土木の水野組」の誕生	進取の精神で事業展開	総合建設業へ	再 建
呉を拠点に、 海の土木工事を展開	全国、海外へ雄飛	土木、建築、海外の 3事業の展開	建設市場縮小への対応、 負の遺産からの脱却
<p>「水野組」が広島県呉市で誕生 港湾土木工事を手掛け、 「水の土木の水野組」として発展</p>  <p>4代目水野基次 郎水野組創業 (1896年)</p>  <p>創業当時の呉港 (1890年)</p>  <p>万関瀬戸 (対馬) の開削工事受注 (1900年)</p>	<p>スエズ運河改修工事を機に海外展開 M&amp;Aにより陸上土木強化、 北海道進出で全国展開</p>  <p>戦後初めての大型 岸壁工事・大分県 津久見港の産業施 設整備工事受注 (1948年)</p>  <p>スエズ運河改修工 事受注 (1961 年) スエズ運河拓 幅増深工事受注 (1974年)</p>  <p>日本鋼管福山臨海 工業用地造成工事 受注 (1961年)</p>  <p>ジュロン造船所ドック 岸壁工事受注 シンガポールへ進出 (1964年)</p>	<p>バランスの取れた総合建設業を目指して、 国内外で建築事業を強化</p>  <p>シンガポール、ジュロ ン地区トラス埋立 工事受注 (1984年)</p>  <p>サンプラザビル受注 香港へ進出 (1986年)</p>  <p>ワールド流通セン ター竣工 (1993年)</p>  <p>関西国際空港第1 期空港島受注 (1986年) 第2期空港島受注 (1999年)</p>	<p>建設市場が縮小する中、財務健全化 と技術力を生かした本業強化を推進</p>  <p>世界最大級の自航 式浚渫船「クイーン・ オブ・ペンタオーション」 (現：アンドロメダ V) シンガポール就 役 (1999年)</p>  <p>シンガポール、エスプラ ネードシアターズオンザ ベイ竣工 (2002年)</p>  <p>中部国際空港完成 (2003年)</p>  <p>アーバンビューグランド タワー竣工 (2004年)</p>

1896 水野組創業

1964 シンガポール進出

1967 五洋建設 (改称)

1986 香港進出

1996 創業100周年

# ■ 五洋建設130年の歴史

## 第V期 (2005年～)

### 再生

臨海部ナンバーワン企業を目指して

臨海部と海外に強みを持つという特徴を生かして、国内土木、国内建築、国際の3部門体制の確立へ



新東名高速道路  
小河内トンネル完成 (2005年)



東京国際空港D  
滑走路供用開始 (2010年)



東京ゲートブリッジ  
完成 (2007年)



九州新幹線玉名  
津留高架橋完成 (2008年)



MAZDA Zoom-Zoom  
スタジアム広島竣工 (2009年)



シンガポール  
アイオン・オー  
チャード・ザオー  
チャードレジデンス  
竣工 (2010年)



カイトッククルーズ  
ターミナル完成 (2013年)

## 第VI期 (2014年～)

### 進化

臨海部と海外に強みを持つ  
グローバル・ゼネラルコントラクターへ

土木・建築、国内・海外の部門間連携の推進洋上風力や  
ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) 等、新分野に挑戦



自航式ポンプ浚渫  
船「カシオペアV」  
完成 (2014年)



シンガポール  
センカン総合病院  
竣工 (2018年)



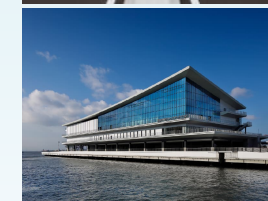
ヨドバシ梅田タワ-  
竣工 (2019年)



久光製薬  
ミュージアム竣工 (2019年)



東京港海の森  
トンネル完成 (2020年)



東京国際クルーズ  
ターミナル完成 (2020年)



北九州響灘洋上  
風力発電事業風  
車基礎・海洋工  
事等完成 (2025年)

2014

シンガポール進出50周年

2021

創業125周年

2026

創業130周年

# ■ 最近 5 年間の取組み

## 国内土木

～事業量の拡大

大型工事の増加

- ・防衛関係
- ・国土強靱化
- ・洋上風力



三ツ子島埠頭棧橋 (2023年完成)  
土木学会技術賞  
日建連土木賞



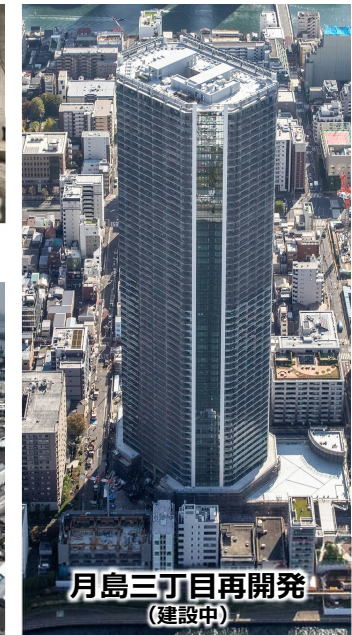
響灘洋上WF  
(2025年完成)



多摩川スカイブリッジ (2022年完成)  
日建連土木賞受賞・土木学会デザイン賞優秀賞



青崩峠トンネル  
(2024年完成)  
土木学会技術賞、日建連土木賞



月島三丁目再開発  
(建設中)

## 国内建築

～事業量の拡大

大型工事の増加

- ・再開発
- ・データセンター
- ・物流施設



ヒルトン広島  
(2022年完成)



印西データセンター (2025年完成)



Landport横浜杉田  
(2025年完成)

## 国際

～多額の工事損失

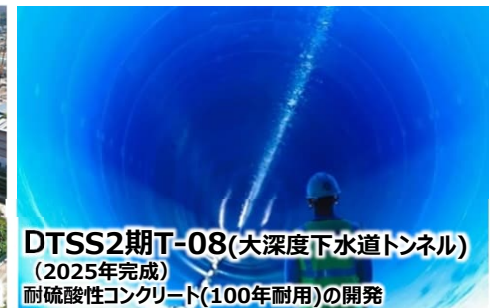
- ・難工事の完遂
- ・海外実績の国内への展開



シンガポール Tekong Polder  
(2025年完成)



T232 (建設中)  
シンガポール・マレーシア国境鉄道施設



DTSS2期T-08(大深度下水道トンネル)  
(2025年完成)  
耐硫酸性コンクリート(100年耐用)の開発

# ■ サステナビリティ経営の実践

## ● サステナビリティ経営を深化させるための仕組みづくり

### ～サステナビリティの取組みは現場から～

#### ○「サステナビリティ表彰」を日本、シンガポール、香港で開催

- ・現場でのサステナビリティの取組みを表彰し、水平展開する「サステナビリティ表彰」を、24年度のシンガポールに続いて、25年度は日本、香港でも開催（応募件数は278件）



建設キャリアアップ®システムの積極推進(顔認証)



サステナビリティ表彰（日本）



サステナビリティ表彰（シンガポール）

#### ○「サステナビリティ朝礼」の継続実施

- ・サステナビリティ経営の具体的な取組みを現場の協力会社の方々とも共有する「サステナビリティ朝礼」を継続実施（24年度より開始、26年1月からは海外でも開始）
- ・25年9月からは、現場の状況に合わせて5か国語のサステナビリティ朝礼ポスター等を作成（日本語・英語・中国語・ベトナム語・インドネシア語）



外国人の働きやすい環境整備



サステナビリティ朝礼（日本）



サステナビリティ朝礼（ベトナム）

## ● 重要課題への取組み

### ○人権の尊重

- ・自社グループ・取引先を対象とした人権DDモニタリングを、グローバルで継続実施（25年7月～26年4月、海外は7か国）、改善策の実施状況をフォロー
- ・取引先を対象としたモニタリングを、自己評価質問票にて実施

### ○持続可能なサプライチェーン

- ・国内、シンガポール・香港をはじめとした海外の主要拠点において、社内および取引先を対象に、方針・ガイドラインの説明会を実施
- ・主な取引先を対象とした取組状況のモニタリングを、25年度は大幅に拡大し、1,075社を対象に実施（回答率83.5%、人権DDモニタリングも同時実施）
- ・取引先を訪問し、回答内容のヒアリングと意見交換を実施
- ・判明した課題への対応、サプライチェーンの支援策を実施

### ○DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の推進

- ・「五洋建設グループ DE & I推進方針」の策定（25年8月）

### ○気候変動問題への対応（別ページにて詳述）

- ・「CDP2024サプライヤーエンゲージメント評価」において、最高評価の「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」に選定（25年7月）

### ○豊かな環境の創造

- ・「五洋建設グループ 生物多様性に関する行動指針」の策定（25年8月）
- ・国際的な開示スタンダード（TNFD）に基づき、自社事業の生物多様性への依存と影響を把握し、開示（26年5月）

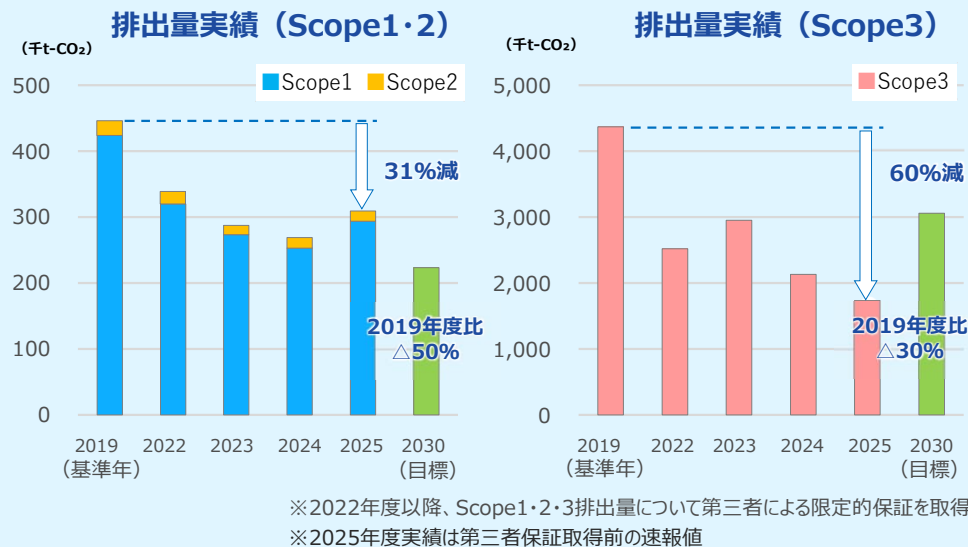


# GXの推進 カーボンニュートラルの実現に向けて

## ○気候変動問題への対応の全社展開～カーボンニュートラル実現に貢献

▽TCFD最終提言に賛同し情報開示を進めるとともに、SBT認定を取得した削減目標の達成に向け、排出量削減の取組みを推進

### ●CO<sub>2</sub>排出量削減目標



### ●建設事業活動のCNに向けた取組み(Scope1・2)

- (短期) ICT等の活用による生産性向上 (DX推進)  
現場事務所のZEB化推進(中計目標：20現場)  
燃費改善添加剤の導入拡大：建機、作業船
- (中期) 次世代燃料 (FAME等) の導入拡大(中計目標：200KL)  
再エネ電力活用 (陸電供給や蓄電池の活用を含む)  
作業船の電動化による自動自律化
- (長期) 水素・アンモニア等次世代エネルギーの導入・普及



### ●ZEBへの取組み (Scope2・Scope3)

- ・本社ビルの電力を100%グリーン電力化 (26年4月)
- ・室蘭製作所新工場：太陽光発電 + 水素エネルギー利用の実施  
⇒水電解装置・蓄電池を増設予定(26年度)
- ・技術研究所(那須塩原市)：太陽光発電設備と蓄電池を設置(25年度)
- ・新規案件において積極的に建築物のZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) 化を提案

○当社の主なZEB施工実績 認証取得件数38件 (うち、工事事務所7件)



久光製薬ミュージアム  
建設工事



五洋建設室蘭製作所



北九州響灘洋上風力建設  
工事事務所

### ●「低炭素性」×「資源循環性」を併せ持つ 環境にやさしいコンクリート「CELBIC-RA」※1を初適用

- ・BFCCU研究会(当社を含む13社の共同研究会)が開発したCELBIC-RAを  
立体駐車場建設計画(発注者:エクシオグループ株式会社)の基礎に適用し、  
約70%のCO<sub>2</sub>排出量を削減

※1：結合材の70%を高炉スラグ微粉末に置き換えて、  
製造～保管の工程を経てCO<sub>2</sub>を吸収・固定した  
材料である再生骨材を使用した「低炭素性」と  
「資源循環性」を併せ持つ環境にやさしいコンクリート

(Consideration for Environmental Load using  
Blast furnace slag In Concrete-Recycled Aggregate)



CELBIC-RAの打込み状況

# ■ GXの推進 洋上風力建設への挑戦

- 北九州響灘洋上ウインドファームの全工事が完了し、2026年3月より営業運転開始
- 国内最大規模（約220MW）の洋上風力発電所の完成に、当社の作業船団と海洋土木技術が大きく貢献

## 【事業の概要】

- ・設置場所：北九州港響灘地区 港湾区域内（約2,700ha）
- ・規模：9.6MW級風車 × 25基（総出力 約220MW）



## 【当社の強みと施工実績】

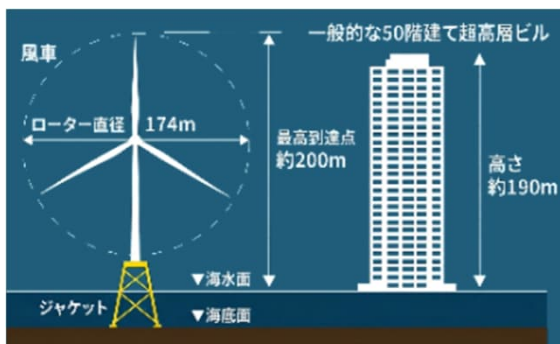
- ・自社保有作業船団を駆使し、安全かつ着実に完遂
- ・洋上風力建設におけるフロントランナーとしての確かな施工能力を実証
- ・海象条件の影響を受けにくいSEP船と自航式作業船が活躍

SEP船：CP-16001、CP-8001

自航船：自航式多目的起重機船CP-5001、自航式曳航・作業支援船かいこう



## 【風車サイズのイメージ】



## 【施工写真】



基礎杭打設



ジャケット据付



風車据付



ケーブル敷設

# ■ GXの推進 洋上風力作業船のラインアップ

風車据付		洗堀防止・作業支援	
CP-8001	CP-16001	Sea Challenger	CP-5001
			
2018年完成	2023年完成	2014年完成、2025年12月改造完成	2012年完成
非自航 (800t吊) /五洋所有	非自航 (1,600t吊) /PKY所有	自航 (1,600t吊) /JOM所有	自航 (500t吊) /五洋所有

※PKYマリン (五洋・鹿島・寄神) ※ジャパンオフショアマリン (JOM) (五洋・DEME)

電力ケーブル敷設	基礎施工 (モノパイル)		非自航SEP船曳航・作業支援
CLV (ケーブル敷設船)	HLV (大型基礎施工船)		かいこう
			
2028年完成予定	2028年完成予定		2021年完成
自航 (ケーブル10,000t) 五洋・芙蓉総合リース共有	自航 (5,000t吊) 五洋・芙蓉総合リース共有		自航 (6,000馬力) /KWS所有

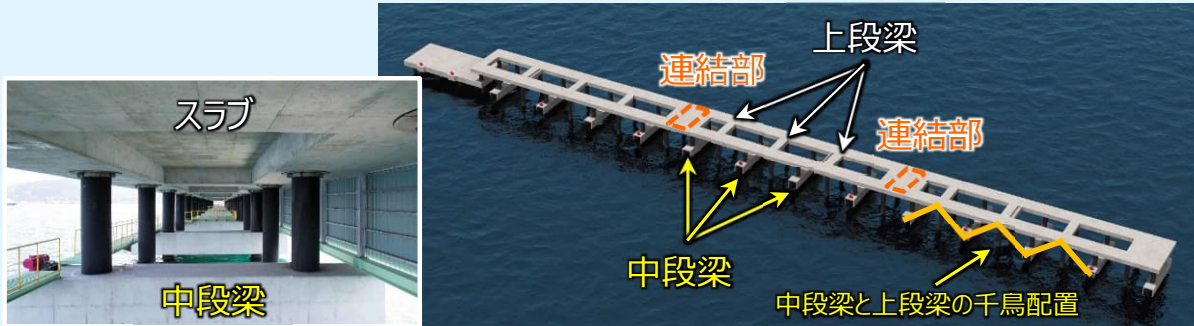
# 国内土木 国内最大規模PCa床板の一括架設

- PCa部材の徹底した統合・大型化を行い、ユニット数を極限まで削減し生産性を大幅に向上
- 不確実な気海象条件を自社開発システムにて高精度に予測、情報共有体制を構築し克服

## ●秋芳鉱業(株) 新栈橋延伸プロジェクト

### ●「中段梁千鳥構造」による部材の削減

- ・既設栈橋では独立構造としていた「本体栈橋」と「接岸ドルフィン」を一体化し、合理的な構造に
- ・中段梁PCa部材を新設し、中段梁に複数の機能を集約  
(防舷材取付基部・船体からの反力支持・後列杭との連結)
- ・防舷材を設置しない杭列の中段梁を省く「千鳥配置」を採用  
→PCaユニット数の大幅な削減



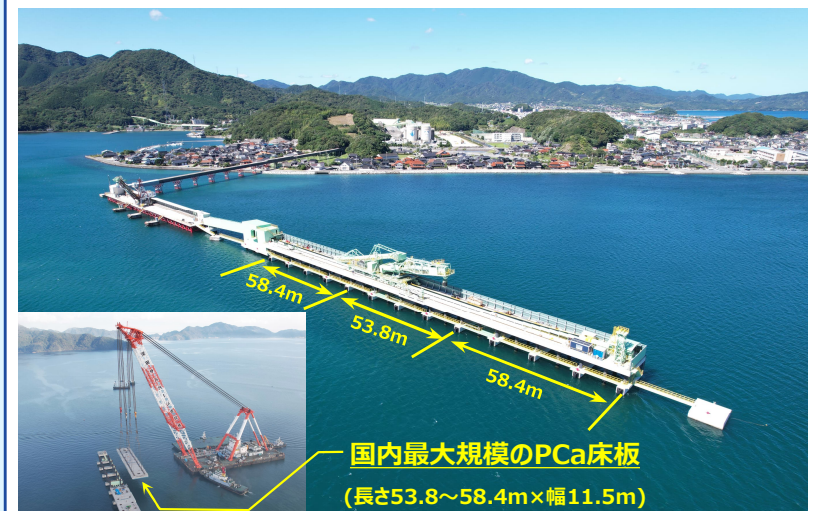
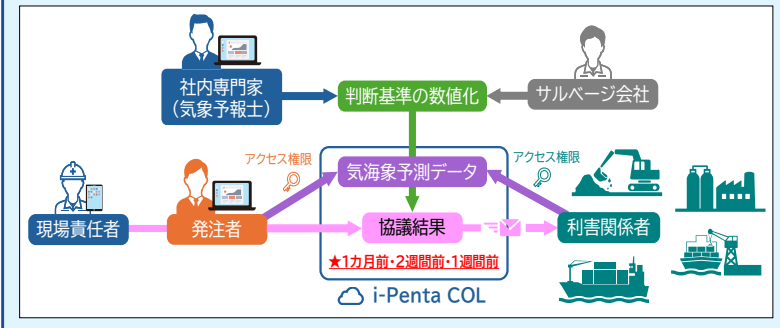
### ●「SRC構造」による部材の大型化

- ・起重機船による揚重時の変形やひび割れリスクを解消すべく、PCa部材内部への鋼材補強（SRC構造）の実施  
→前例のない長大PCa部材での一括架設を可能にし、海上作業を最小限に



### ●自社開発システムによる迅速な意思決定

- ・「気海象予測システム」：長大PCa部材の架設に必要な「連続静穏4日」を、早期・高精度に特定
- ・「i-PentaCOL」：発注者や社外関係者と予測データおよび判断基準をリアルタイムに共有



# 国内土木 2025年度 主要竣工工事



仙台塩釜港石巻港区雲雀野地区岸壁(-12m)(耐震)地盤改良工事 (宮城県 25年12月竣工)



小木港 (小木地区) 岸壁 (- 4. 5 m) (災害復旧) 改良外 1 件工事 (石川県 26年3月竣工)



輪島港 (河井地区) 泊地 (- 7. 5 m) (災害復旧) 浚渫外 1 件工事 (石川県 26年3月竣工)



黒河川水力発電所新設工事 (福井県 25年5月竣工)



令和 5 年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁 (- 1 6 m) (耐震) 築造工事 (東京都 26年2月竣工)



東海環状自動車道々々利第二トンネル他1トンネル工事 (岐阜県 25年4月竣工)



東海環状自動車道高柳工事 (三重県 25年5月竣工)



(仮称)宮島口西地区造成工事 (広島県 26年3月竣工)



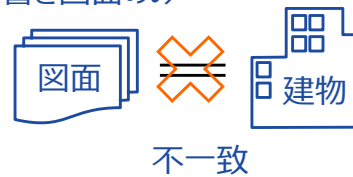
令和 7 年度川内港 (唐浜地区) 岸壁 (- 1 2 m) 築造工事 (鹿児島県 26年3月竣工)

# 国内建築 DXの推進 リニューアル工事における生産性向上

- レーザースキャナを用いた点群測量により建物形状把握を高度化、省力化
- 3Dデータを活用した遠隔臨場により発注者との合意形成を円滑化

## ○対象建物と技術導入の背景

- ・70年以上前に建築され、残された図面は手書き図面のみの
  - ・用途変更12回、増改築22回を重ねた結果、図面と現場が不一致
  - ・水平直角では無い複雑な躯体形状
  - ・広大な作業エリア
- ⇒ 従来の測量ではリニューアル工事に先立つ  
正確な現状把握が困難、かつ時間・労力を要する



## ○レーザースキャナによる点群測量で現状把握を高度化・省力化

- ・複雑な躯体形状を足場無しに床面からレーザーで正確に補足
  - 手作業による測量ミスゼロに
  - 足場に昇っての高所作業が無く、天井測量時の安全性が向上
  - 測量コスト削減（従来の手作業による測量に比べて1/8に削減）
- ⇒既存建物の形状把握の高度化、測量作業の省力化
- 点群データをCADデータ化し、リニューアル工事の生産性が向上



## ○赤外線センサー+360度カメラによる3Dデータ取得

⇒3Dデータを活用した遠隔臨場により合意形成を円滑化

- ・リアルな3Dのデジタルモデル（デジタルツイン）を再現し、建物内部をバーチャルツアーのように歩き回りながら確認が可能



- ・定例会議参加者70名の現場内移動時間を削減
- 関係者間の「認識のズレ」を防止し、合意形成の円滑化

# ■ 国内建築 2025年度 主要竣工工事



三井不動産レジデンシャル(株) パークコート  
ザ・三番町ハウス (東京都 25年11月竣工)



東濃中部病院事務組合 公立東濃中部医療センター  
(岐阜県 25年11月竣工)



北海道開発局 札幌第4合同庁舎  
(北海道 26年2月竣工)



尼崎4ロジスティック特定目的会社 ALFALINK尼崎 北棟  
(兵庫県 25年10月竣工)

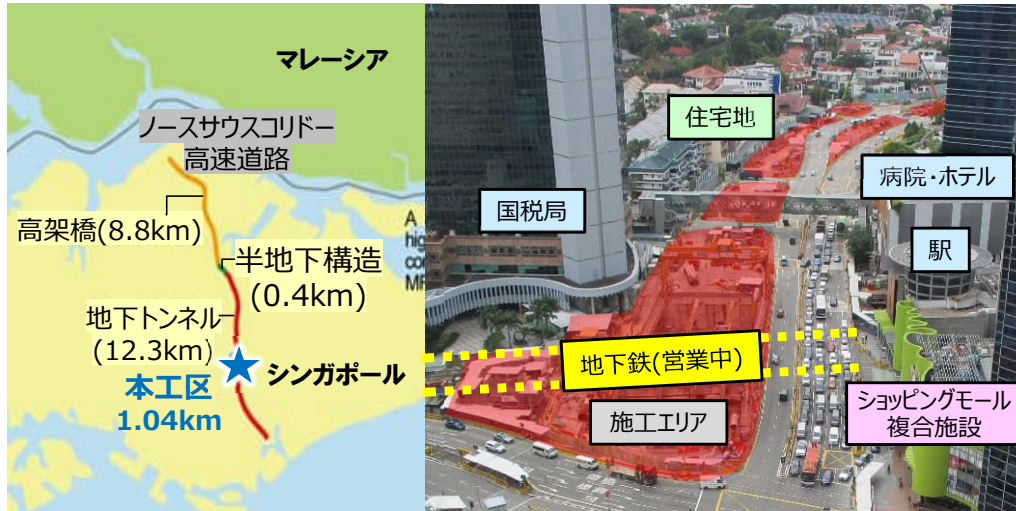


安田不動産(株) LOGION習志野  
(千葉県 25年9月竣工)

# 海外 地下トンネル工事の難所を技術力で突破

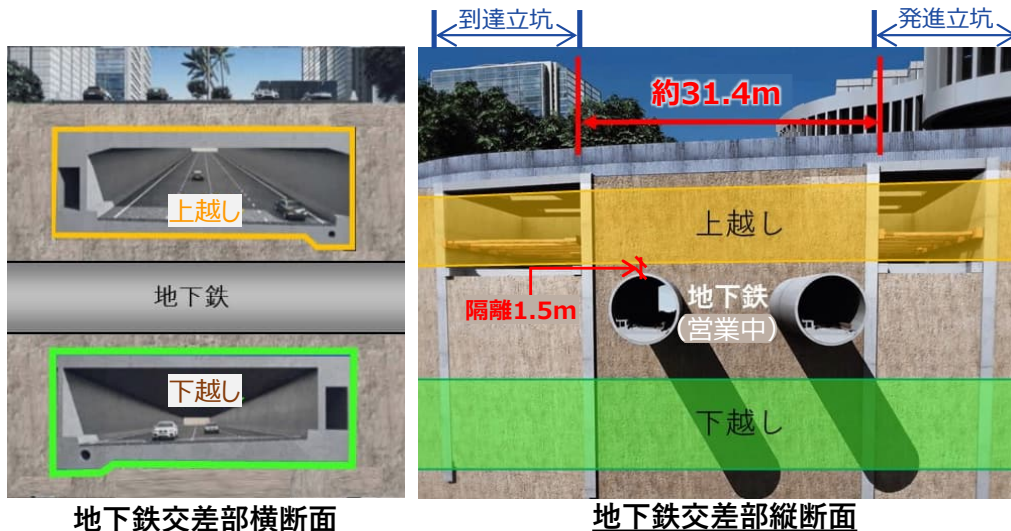
## ノースサウスコリドー高速道路N105工事（シンガポール）

発注者：Land Transport Authority of Singapore (LTA)  
 施工者：五洋・Bachy JV  
 受注年：2018年



### ○営業中の地下鉄を上下で挟むトンネル2本を構築する難工事

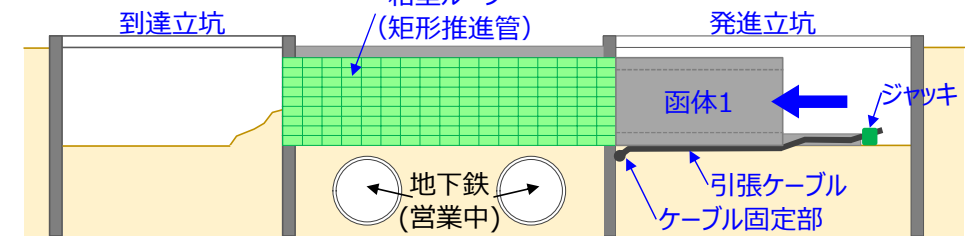
- ・高速道路の地下トンネル（片側4車線、上下2連ボックスカルバート）新設工事
- ・施工場所が都市部、幹線道路交差点付近であり、狭隘な施工エリアでの工事



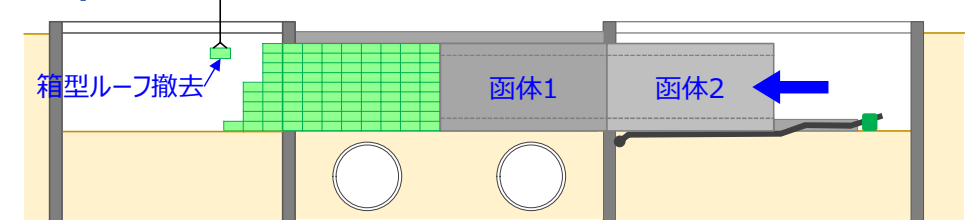
### ○施工方法の合理化→大幅な省力化と施工安全性が向上～SFT工法（ケーブル牽引システム）の採用

- ・上越しトンネルの施工は営業中の地下鉄への影響を最小限に抑えるため、地下鉄上部を開削せずにボックスカルバート（函体）を構築するSFT（Simple Faceless Tunnel）工法を採用
- 上越しトンネル施工の省力化（71日工期短縮）+無事故無災害を達成

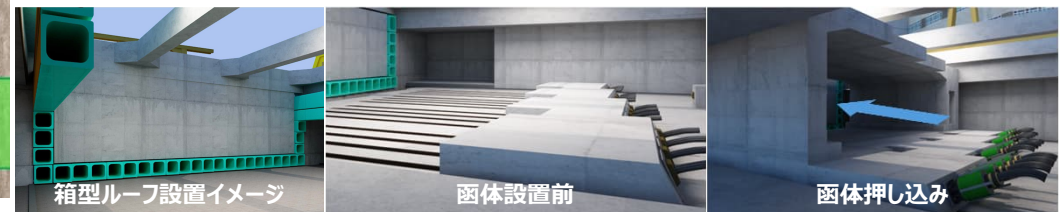
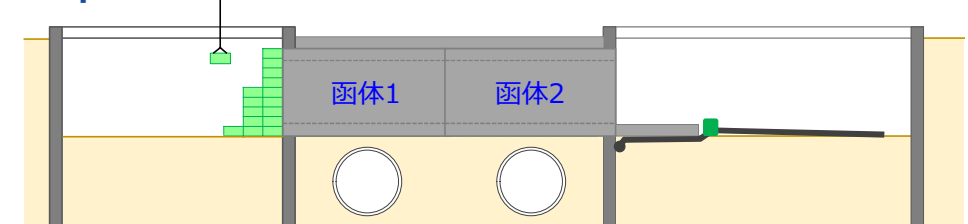
#### Step1：函体1押し込み



#### Step2：函体2押し込み



#### Step3：函体設置完了



# 海外 シンガポール手持工事、主要船舶稼働状況

## ○シンガポール 主要手持工事

No	工事名称 (発注者)	工事概要・工期	請負金額・進捗
①	トウアスターミナル第二期埋立工事 (MPA)	埋立造成 2018.03~2027.03	565億円 83.6%
②	ノースサウスコリドー高速道路N105工事 (LTA)	高速道路トンネル 工期非公表	474億円 63.5%
③	入国管理局増改築工事 (MHA)	事務所増改築 工期非公表	293億円 75.1%
④	シンガポール・マレーシア国境鉄道施設工事 (LTA)	公共施設・駅舎建設 2020.11~2026.09	1,013億円 85.5%
⑤	クロスアイランドライン地下鉄工事CR117工区 (LTA)	トンネル・駅舎建設 工期非公表	576億円 55.0%
⑥	エレクトティブケアセンター&ナショナルデンタルセンター新築工事 (MOH)	医療施設新築 工期非公表	1,150億円 59.2%
⑦	航空交通管制センター増築工事 (CAAS)	航空管制センター増築 工期非公表	348億円 12.3%
⑧	チャンギ空港第5ターミナル ターミナル連絡トンネル工事 (CAG)	ターミナル連絡トンネル 工期：4年強	761億円 4.0%
⑨	トウアス北部埋立工事 (JTCコーポレーション)	埋立造成 2025.8~2030.7	335億円 7.0%



### ① Finger3



### ④ T232



### ⑤ CR117



### ⑥ ECC&NDCS



## ○主要船舶稼働状況 (実績及び計画)

### アンドロメダV

船種：シートレーラー (自航式大型浚渫船)  
用途：ドラッグサクソン浚渫  
船体寸法：全長166.7m、幅31.0m、深さ12.5m  
建造年：1999年

### カシオペアV

船種：自航式ポンプ浚渫船  
用途：カッターサクソン浚渫  
船体寸法：全長123.2m、幅23.0m、深さ9.3m  
建造年：2014年



		2025年度(実績)		2026年度(計画)	
アンドロメダV	計画	[Progress bar]		[Progress bar]	
	実績	[Progress bar]		[Progress bar]	
	稼働期間	10ヶ月		7ヶ月	
カシオペアV	計画	[Progress bar]		[Progress bar]	
	実績	[Progress bar]		[Progress bar]	
	稼働期間	9ヶ月		7ヶ月	

# 海外 香港・その他 手持工事

## ○香港 主要手持工事

No	工事名称 (発注者)	工事概要・工期・請負金額・進捗率
①	研究実験棟及びIT棟新築工事 (香港大学)	大学施設新築(3棟) 工期非公表 419億円 89.5%
②	生命化学研究棟新築 (香港科技大学)	大学施設新築 2023.10~2026.03 96億円 88.5%
③	厩舎改修工事 (香港ジョッキークラブ)	厩舎改修 2024.02~2029.09 請負金額非公表 36.1%
④	学生寮新築工事 (香港中文大学)	学生寮新築 2024.12~2027.08 77億円 21.3%
⑤	香港国際空港無人交通車 両用道路・駅舎建設工事 (香港機場管理局)	道路、高架橋、駅舎・停留場 工期：46ヶ月 415億円 5.3%



## ○その他 手持ODA工事

### パティンバン港開発事業 (第一期-フェーズ2) パッケージ6コンテナターミナルNo2建設工事

- 発注者：インドネシア共和国政府
- 施工者：五洋・PP・WIKA・東洋・りんかい日産・JAKON JV
- 契約金額：約440億円 ※当社持分 約220億円(50%)
- 工期：2023年1月~2026年10月(45ヶ月)、進捗率96.8%



### トアマシナ港拡張事業 (パッケージ2)

- 発注者：マダガスカル共和国 トアマシナ港湾公社
- 施工者：五洋建設・大豊建設JV
- 契約金額：約386億円 ※当社持分 約270億円(70%)
- 工期：2020年7月~2028年7月、進捗率78.8%  
(2026年3月 C4バース 333メートル区間 引渡し)

